

データから見る幼児教育

多様化する預け先と、預ける保護者の意識

ベネッセ次世代育成研究所は、2011年10月上旬、首都圏の認可保育園に入園申請をした母親967名に「保育園への入園の実態」について調査を行いました。園で家庭への支援を考える材料のひとつとして、また、保護者への発信にもぜひご活用ください。

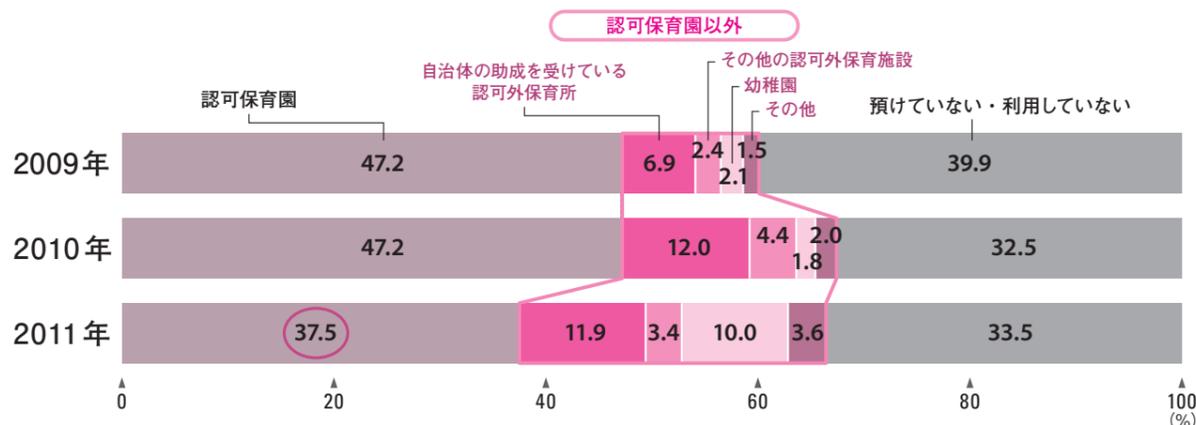
引用・掲載時のお願い 本調査の結果を引用される際には、調査名称を記載してください(例:ベネッセ次世代育成研究所「2009年～2011年 首都圏“待機児童”レポート(2011)」)。

出典:【2009年～2011年 首都圏“待機児童”レポート】
 ■調査対象:各年(2009/2010/2011)の4月入園に向けて、首都圏の認可保育園に入園申請をした母親
 ■有効回答数:2009年 720人/2010年 836人/2011年 967人
 ■調査時期:2009年9月/2010年7月/2011年10月
 ■調査地域:東京・神奈川・埼玉・千葉
 ■調査方法:インターネット調査
 ■調査項目:保育園入園申請・利用の実態、入園申請に向けての行動や意識、働いている理由など。
 (2011年のみ) 保育施設について重要視していること・子どもを預けることについての考え・保育制度へのニーズ

認可保育園への入園申請者のうち、実際に入園できたのは37.5%

Q. 対象のお子さんについて、4月において入園・利用を決定された保育施設・サービスについて、あてはまるものをひとつ選んでください。

図1 4月時点での入園状況



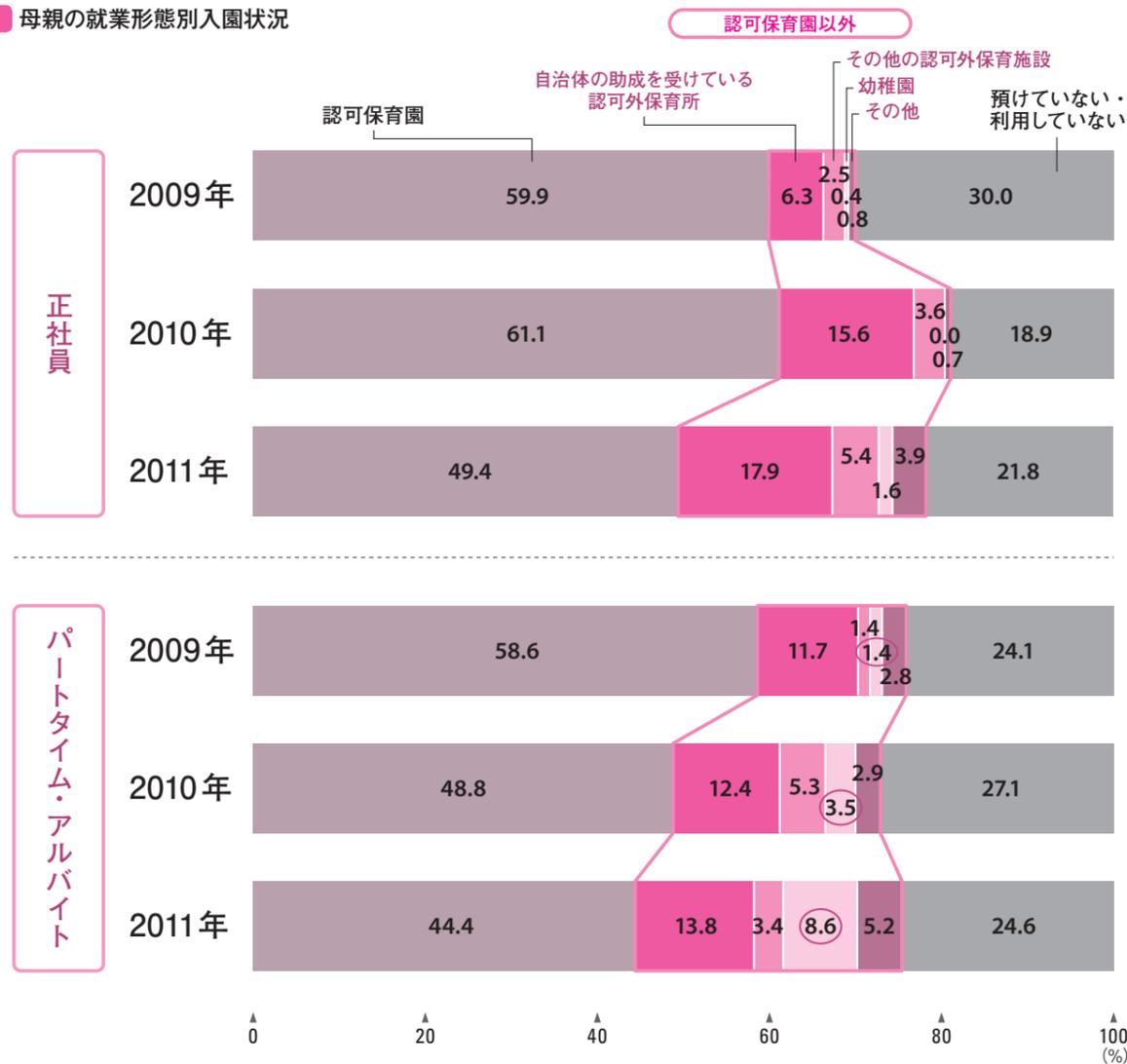
◎首都圏の認可保育園に入園申請した母親に、4月時点で利用を決定した保育施設・サービスについて聞きました。その結果、認可保育園への入園割合は2011年では37.5%となり、依然厳しい状況であることがわかりました。一方で2009年に比べると、認可保育園以外の預け先が増加しています。特に3～5歳児枠では、幼稚園の入園が増加していました(2009年7.2%→2011年29.3%、図省略)。また、「預けていない・利用していない」と答えた割合が2009年に比べて減少しています(2009年39.9%→2011年33.5%)、それには、認可外保育施設や幼稚園など、多様な預け先を利用できるようになったことも背景にあるのではないかと考えられます。

※「対象のお子さん」とは(2009年/2010年/2011年)4月度に保育施設・サービスに入園・利用申請した子どものことを指す。対象の子どもの年齢が2人以上いる場合は、末子を対象とする。
 ※「その他」には、選択肢として用意した「市区町村の保育ママ」「認定こども園」「事業所内保育所」「ベビーシッター」「ファミリーサポート」を含む。

母親の働き方により、認可外保育施設や幼稚園に預ける割合が増加

Q. 4月において入園・利用を決定された保育サービスについて、あてはまるものをひとつ選んでください。

図2 母親の就業形態別入園状況



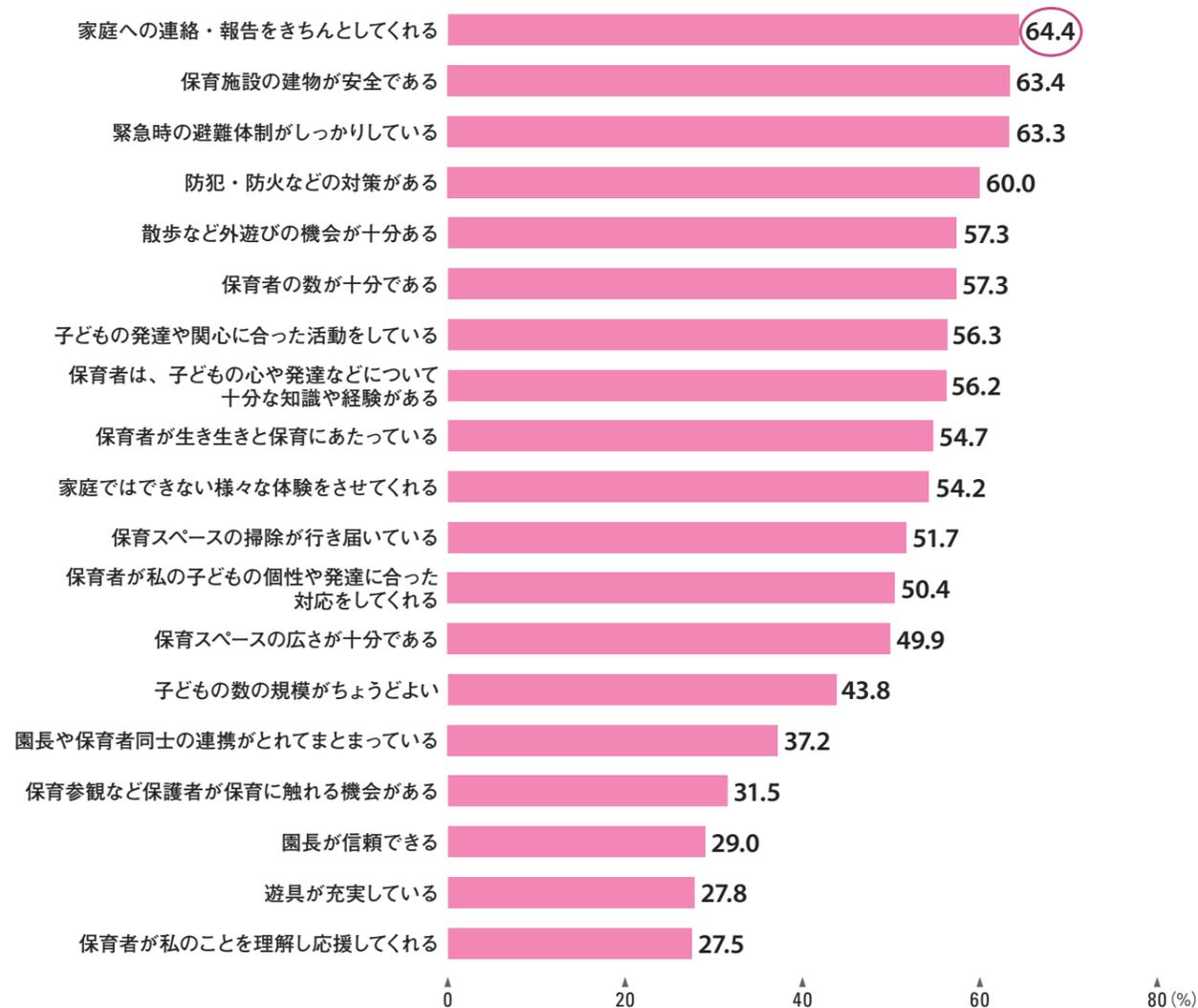
◎4月時点の預け先について、入園申請時点での母親の就業形態別に見ました。2011年でみると正社員は認可保育園以外の預け先として、自治体の助成を受けている認可外保育所がパート・アルバイトより多く、パート・アルバイトは正社員に比べて、幼稚園に預ける割合が多い傾向がみられました。また、パートタイム・アルバイトの母親が幼稚園に預ける割合は、この3年で増加しています(2009年1.4%→2010年3.5%→2011年8.6%)。この背景には、働く時間を柔軟に決められたりする働き方の場合、幼稚園で実施している預かり保育などを利用して働きやすくなっていることがあるかもしれません。

※「その他」には、選択肢として用意した「市区町村の保育ママ」「認定こども園」「事業所内保育所」「ベビーシッター」「ファミリーサポート」を含む。
 ※就業形態は入園申請時点のもの。

保護者は「家庭への連絡・報告」をきわめて重視している

Q. 保育施設的环境・設備・保育者などについて、お子さんを保育施設に預ける中で、あなたが重視していることについて、それぞれお気持ちにもっともあてはまるものをひとつずつ選んでください。

図3 保育施設に預ける中できわめて重視していること



◎園に預ける中で、保護者が重視していることについて聞いたところ、きわめて重視していることは「家庭への連絡・報告をきちんとしてくれる」という項目が最も高く、64.4%でした。ついで、東日本大震災の影響もあるのか、建物の安全性や、避難体制、防犯・防火対策などが続きます。また、「子どもの発達や関心に合った活動をしている」「保育者が生き

生きと保育にあたっている」など、保育内容や保育者の子どもへの関わりなどの項目もすべて5割以上の保護者がきわめて重視していることもわかりました。

※調査時点（2011年10月）、子どもを保育施設・サービスに預けている母親（607名）の回答のみ分析
※「きわめて重視している」と回答した割合のみ表示

調査データを踏まえ、園運営について考える

今回紹介したデータから読み取れることや、今後の園運営に生かせることをお2人の先生にうかがいました。

子どもの様子をより伝えるために新しいメディアも活用したい

無藤隆

このデータは、認可保育園に入園申請した人が対象ですから、そもそも入園が難しいと考えて申請をしなかった人が相当数いると考えてよいでしょう。首都圏の実態を見ると、従来の認可保育園を整備するだけでは対応は難しく、社会全体として考えていかなければならない問題といえます。一方で地方では少子化の中で園の定員割れも起こってくる可能性もあるでしょうし、今後、保護者の働き方や預け方も多様化していくと思われますから、首都圏、地方を問わず、それぞれの地域ごとに工夫が必要になります。

保護者が預け先に重視していることのトップは、「家庭への連絡・報告」となっていますが、保護者は常に園での子どもの様子を気にしているものです。どの園でも園だよりなどで情報提供に努めていると思いますが、新しいメディアを使った方法を取り入れるのも一策です。例えば、子どもの姿をより伝えるために、デジタルカメラで撮影して、写真を携帯電話で配信している園もあります。保護者への情報提供は、保育や園の方針をしっかりと伝えるチャンスでもありますから、ますます力を入れていきたいところです。

働く母親の預け先として幼稚園への期待が大きくなっている

汐見稔幸

データで気になることのひとつが、2011年に認可保育園に入れた子どもの割合が大きく下がっていることです。認可保育園の数が増えない中、他の選択肢が増えたこともあり、預け先が多様化しているのではないのでしょうか。

一方で幼稚園に預ける割合が大きく伸びています。このデータは幼稚園に対するニーズの高さを示しているといえるでしょう。今後、幼稚園の果たす役割が大きくなっていくのかもしれませんが。

